



県警だより 31

茨城県警察における 犯罪の起きにくい社会づくりの実現に向けた諸施策の推進について



茨城県警察本部生活安全部
生活安全部参事官兼生活安全総務課長 警視
平松 一年

1.はじめに

茨城県警察では、「安全で安心して暮らせる地域社会の確立～強く・正しく・親切に～」を運営指針として、自治体、事業者、ボランティア団体等と連携しながら犯罪の起きにくい社会づくりを推進していますので、その一部を紹介します。



警察本部庁舎

2.茨城県の特徴と犯罪情勢

(1) 茨城県の特徴

人口は約300万人で、関東地方の北東に位置しています。太平洋にのぞむ東側は海岸線が総延長190kmに及び、北部から北西部には八溝山、筑波山などの山々が、中央部から南部は関東平野が広がります。約1,300年前の常陸国風土記には「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びとと豊かに暮らし、常世の国のようだ」とあり、豊かな自然と温和な気候に恵まれています。



雪の偕楽園

また、つくばエクスプレスや常磐自動車道など4本の高速道路、重要港湾の茨城港、昨年3月に開港した茨城空港など、広域交通ネットワークは陸・海・空へと広がりを見せてています。

農業では、メロンやれんこん、栗など生産量全国1位を誇る品目が数多く、納豆や干し芋、あんこう料理も有名です。

観光では、日本三名園のひとつ『偕楽園』が約100品種3,000本の梅で多くの観光客を魅了し、大岸壁を四段に流れ「四度の滝」と呼ばれる日本三名瀑のひとつ『袋田の滝』は、四季を通じてそれぞれの景色を堪能させてくれます。

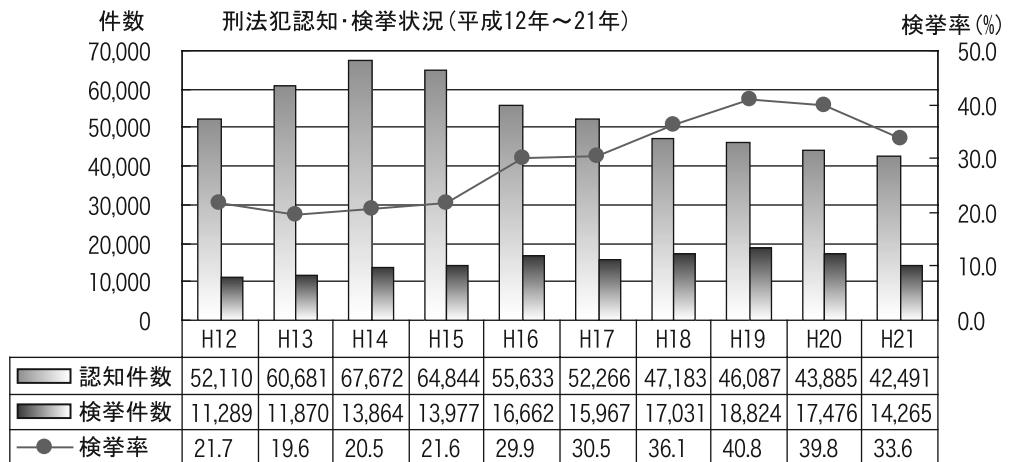
昨年10月に公開された映画「桜田門外ノ変」は、地元の市民団体が企画を立ち上げ、県全体がバックアップする形で映画化支援の会が発足し、製作されました。県内全域でロケが行われるなど、地方から生まれた県民創生映画として注目されます。



冬の袋田の滝

(2) 犯罪情勢

県内の刑法犯認知件数は、平成14年をピークに、平成21年まで7年連続で減少しています。平成22年は一時期前年同期比で増加し、10月末現在も前年同期比-2.0%とわずかな減少に留まっています。ひったくりや車上ねらい等が減少する一方、自動車盗や空き巣が増加しており、諸対策を推進しています。



3. 犯罪抑止対策の推進

(1) 安全・安心まちづくり活動

○防犯ボランティア団体等との連携

本県では、「自分たちの街は自分たちの手で守ろう」と結成された防犯ボランティア団体は、10月末現在943団体、約67,320人、青色回転灯装備車両による防犯パトロールは141団体、562台に上ります。各地で防犯パトロールや子どもの見守り活動、防犯診断等の自主防犯活動が行われています。

各自治体も自主防犯ボランティア活動の拠点づくりを進めており、5市で7か所開所して、防犯活動を支援しています。

昨年は、大学生による防犯ボランティア団体V.P.I(ボランティアパトロールイバラキ)が結成され、今後の防犯活動が期待されます。



防犯拠点『まちばん荒川沖』

○自動車盗防止対策

自動車盗の認知件数は2,010件(10月末現在)で、特に貨物車や建設用重機が被害に遭う割合が高く、前年同期比11.7%増加しています。平成22年5月には県警に「自動車盗対策プロジェクト・チーム」を設置し、総合的な対策を行っています。さらに、自動車販売店・盗難保険会社・ユーザーなどに対する広報啓発や防犯ボランティアとの合同パトロールなど、被害に遭わない環境づくりに努めています。

○侵入盗防止対策

空き巣など住宅対象侵入窃盗の犯罪抑止に向け、年間を通じて住宅防犯診断を推進して県民の防犯意識の高揚を図るとともに、防犯ボランティアとの合同パトロールなど、「犯罪に強いまちづくり」に努めています。



住宅防犯診断は、自治体や防犯ボランティア等とも連携しながら、被害に遭ったり、遭いやすいアパートなどを直接訪問し、防犯上の指導助言を行っています。



防犯診断を実施した世帯には、茨城県警のマスコット「ひばりくん」入りのステッカー「防犯安全・安心の家」を配付しています。また、各警察署の警察官を対象に、防犯設備士の資格を持った警察官等による教養を行い、より効果的な診断となるよう努めています。



○万引き防止対策

規範意識の低下をまねく象徴的な犯罪である万引きは、犯罪の起きにくい社会づくりを推進する上で看過できない犯罪です。万引きの認知件数は平成19年以降毎年増加し続け、平成21年は過去最多の4,314件を記録しました。そこで昨年は、毎月10日を「万引きゼロの日」とし、自治体や関係機関・団体と連携したキャンペーン、万引き多発店舗に対する制服警察官の立寄り警戒等、万引きしにくい社会環境づくりを推進しています。

水戸警察署管内では、8月に警察官OB有志が「万引き防止隊」を結成し、多発店舗への立寄り警戒等の活動を行っています。



(2) 振り込め詐欺被害防止対策

10月末現在、振り込め詐欺の認知件数は99件で、前年同期比-89件（約47%減）、被害総額は約1億1,500万円で、同一1億600万円（約48%減）と半減しています。しかし、警察官や息子を名乗る手口がいまだ多発しており、県警の「ひばりくん防犯メール」による情報提供、高齢者宅への巡回連絡、さらに平成22年12月から外部委託による「振り込め詐欺撲滅センター」を設置し、女性名義電話帳登載者方を中心に電話による注意喚起等の防犯対策を強化しています。

(3) 子ども・女性安全対策

平成21年4月1日、生活安全総務課内に設置した「子どもと女性の安全対策室」では、3つの班に分かれ不審者情報の収集、発生現場の確認、行為者の特定、検挙・指導警告などの先制予防活動を行っています。

4. 終わりに

安全で安心して暮らせる茨城県するために、引き続き犯罪発生の抑止を主眼とした諸対策を推進するとともに、地域社会との連携を着実に進め、地域住民と一体となって一層の治安回復に取組んでまいります。